

2010年 11 月号



秋も深まってまいりましたがお変わりないことと思います。気候の不安定なことによる野菜の価格の変動が話題となったり、一等米の収穫が落ちたり、初秋のサンマの話題もあり、今年は、食べ物のニュースがとても多かったように思います。ところで、松茸は豊作とのことなので、あまりたくさん食べるものではありませんが、香りを楽しむぐらいは出来そうです。

### 11 月定例会

・・・詳細 P.2-3

11 月の定例会は 16 日（火）おなじみの国際医療福祉大学の大学院の大会議室をお借りして開催します。今回は心臓病のトップオーソリティである東邦大学医療センター大森病院循環器内科主任教授の山崎純一先生から「心腎連関」について学習します。最近、慢性腎臓病（CKD）が心血管疾患を引き起こすリスクが大きいということから「心腎連関」と言う言葉もよく使われるようになりました。生活習慣病の延長に慢性腎臓病（CKD）があることを考えると、心腎連関も大変身近なことという意識が必要です。そんな意識を持つには大変有意義な講演と思われます。

定例会終了後、希望者には懇親会「先生を囲む会」を開催します。

### 10 月定例会の報告

・・・詳細 P.4-5

10 月 19 日の定例会は、大手町の TKP 大手町カンファレンスセンターにて、日本総合医学会理事長の岩崎輝明先生の「自然治癒力と酵素」という講演を聞きました。がんも生活習慣病、がんになることは生活習慣の誤りを教えてくれること・・・玄米酵素、食事道研究 40 年の実績から来る説得力もさることながら、うまく聴衆の笑いを引き出す和術で楽しく聞くことが出来ました。

### その他

・・・詳細 P.6-10

今回は、栄養ドリンクの宣伝でよく聞くタウリンが生活習慣病によいということについて、グリベックと言う薬にちなんだ「患者の力」の話題を二つ、遺伝子と薬品の有効性・副作用との関係を追うファーマコゲノミクスのお話、「医療は公共財かビジネスか」では、最近よくみられる病院隣接地の高齢者用賃貸アパートの話題を取り上げました。友好団体のイベントも 2 件ご紹介。

健康医療市民会議(KISK) 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-2 東武ハイライン大門 203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: [Info@kisk.jp](mailto:Info@kisk.jp) URL: [http:// www.kisk.jp](http://www.kisk.jp)

お知らせ:会報は当会ホームページ <http://www.kisk.jp> の「会報」ボタンからダウンロードできます。

## 定例会のご案内

日 時：平成 22 年（2010 年）11 月 16 日（火）16 時（午後 4 時）～18 時

場 所：国際医療福祉大学大学院東京サテライトキャンパス（次頁参照）

参加費：会員 ¥2,000、同伴者・ビジター ¥3,000

予 定：16:00-16:15 代表中間報告

16:15-17:30 講演「心腎連関」山崎純一先生

東邦大学医療センター大森病院循環器内科主任教授

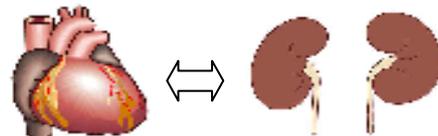
17:40-17:55 会員日より（未定）

定例会終了後、希望者には懇親会「先生を囲む会」があります。（次頁参照）

### <講演概要>

講演「心腎連関」山崎純一・東邦大学医療センター大森病院循環器内科主任教授

近年、循環器領域においても慢性腎疾患（CKD）が注目されているが、それは、慢性の腎障害が心血管疾患のリスクであるという「心腎連関」の考え方が広まっているからである。以前から尿たんぱくと心血管疾患の関係は言われていたが、最近、特に注目を浴びるようになった背景には、2003 年に、米国心臓病学会が、軽度な腎障害でも心血管疾患の強力なリスク因子であるということを発表したことが大きい。慢性腎疾患の発症頻度は日本でも大変高く、2008 年の日本腎臓学会が発表した患者数は 1000 万人（Stage3 以上）と多いし人工透析患者も増えつつある。特に、糖尿病とか高血圧などの生活習慣病が元になっている慢性腎疾患（CKD）が増えており、それが心血管疾患の発症率を押し上げている。（以上、先生筆講演予定内容から抜粋簡略化）。



心臓病の権威である先生から、こうした状況と、心腎連関の具体的な仕組みについて、極めて身近で、有意義なお話を聞くことが出来ると思います。

### <山崎純一先生略歴>

昭和 51 年東邦大学医学部卒業、昭和 56 年米国イーストカロライナ大学留学、昭和 60 年東邦大学医学部助手、平成 6 年同助教授、平成 10 年同教授、平成 12 年東邦大学付属大森病院副院長、平成 18 年同病院院長、現在東邦大学医療センター大森病院循環器内科教授。日本心臓核医学会理事長。その他、関連学会理事、評議員等役職多数。

### <東邦大学>

大正 14 年の財団法人帝国女子医学専門学校設立を起源に、女子の医学生物系の自然科学教育に大きく寄与。戦後、新制の共学の自然科学系総合大学の東邦大学として発展。現在、医学部、薬学部、理学部、看護学部の 4 つの学部を持つ。医学部付属の医療センターは、大森（大田区）、大橋（目黒区）、佐倉（千葉県）の病院と羽田空港にクリニックを持つ。

## 定例会のご案内（続）

### 先生を囲む会のご案内

<先生を囲む会>

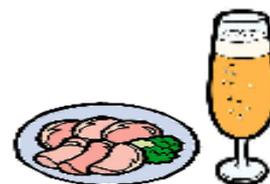
定例会終了後、「先生を囲む会」があります。

参加ご希望の方は必ず事前にFAXにてお申し込みください。

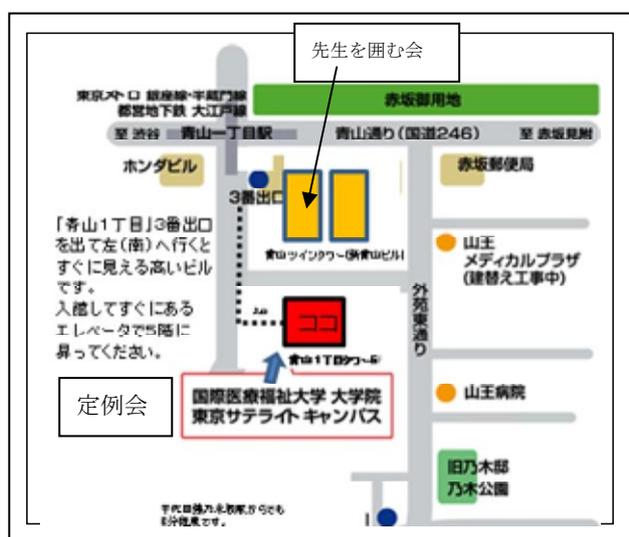
会場：ブラッスリー銀座ライオン青山1丁目店（下図参照）

時間：午後6時30分～8時30分頃

会費：4000円（定例会受付にてお支払いください）



### 会場のご案内



<定例会会場案内>

国際医療福祉大学大学院

東京都港区南青山1-3-3

青山1丁目タワー5F

地下鉄「青山1丁目」3番出口が便利です。

駐車場はありません。やむを得ない場合は青山ツインタワーなどの駐車場をご利用ください。

<先生を囲む会会場案内>

銀座ライオン青山1丁目店

青山ツインタワー（新青山ビル）西館B1

地下鉄「青山1丁目」駅直結。

### 12月21日の『「健康」と「元気」の集い』について

#### 「健康」と「元気」の集い

・お陰さまで大変好評。9月という早目のご案内開始にも関わらず、すでにならぬ多くの方から参加申込を頂いておりますが、10月25日現在、まだ、定員までに余裕があります。ご希望の方はFAXにてお早めにお申し込みください。また、やむなくキャンセルされる方も必ず早目にご連絡くださるようお願いいたします。

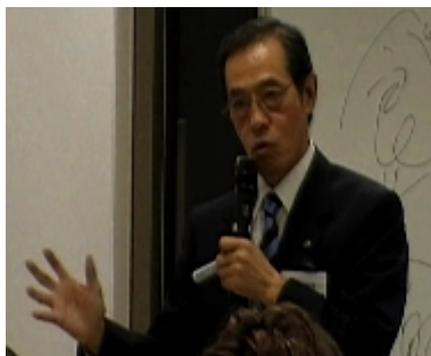
・会場となっております憲政記念館は衆議院付属の施設であり、衆議院議員しか使用出来ません。参議院議員でさえも使用することが出来ない施設となっております。今回の集いは、公式には、当会とともに主催しているふるさとテレビの役員をされている川村秀三郎衆議院議員のシンポジウムとなっております。事情をご理解の上、直接憲政記念館に問い合わせ等のお電話をされることのないようくれぐれもご注意くださいようお願い申し上げます。

# 10月定例会の報告（メモ）

第31回（10月）定例会は、大手町のTKP大手町カンファレンスセンターで開催。今回の講師、岩崎先生の学会、会社（玄米酵素）からの参加もあり大変盛況でした。

## <代表中間報告>

梶原代表から前回（9月）定例会のまとめ、今回10月の日本総合医学会理事長の岩崎輝明先生の紹介、11月の山崎先生の講演の案内、12月の健康と元気の集い・日野原重明先生の講演と懇親会の案内がありました。その他、理想農法研究会の現状、認知症改善センター（平塚）のオープンの報告がありました。



## <講演>

### 「自然治癒力と酵素」岩崎輝明・日本総合医学会理事長

梶原代表の「40年以上の酵素研究の権威。自然治癒力を重視するのは我々と同じ」との期待表明に続き、精悍な黒髪66歳の岩崎先生のエネルギッシュな講義が始まりました。「自然治癒力」が基本で、その原点復帰の国民・市民運動が大切。食生活が良くないと病気になり医療が必要になる。1946年に2.6兆円だった医療費は介護を含め現在43兆円。一般会計税収の37兆円を上回り、借金が1000兆円への財政危機に。1位のガン死者は35万人・年1万人増・

米国は毎年2%減少。2位心疾患16万人、3位脳血管疾患12万人。65%が生活習慣関連で死亡。高血圧4000万人、糖尿病2210万人。医療費で国は減じる。46年から勉強したがヒポクラテスは「病気は患者自身が治し医者が金をもらおう」、杉田玄白は85歳の死の3月前に「医事、自然に如かず」と看破し、医療も自然治癒力が基礎。玄白70歳「養生七不可」は「正物を食す」等・正は一に止まる。釈迦も「病は善知識」と。私は若い時8年間繊維会社に勤めたが、慢性胃炎・便秘・痔・など9つの病気に悩み、妻も娘も病気気味。生き方が間違いかと思い勉強。原因を見つけ反省し実行することが大切と、種々の胃腸薬も全て経験。食事の改善で玄米食を食べ、今迄が不自然だったと、その原因に目覚めた。「食」は人に良いと書くが、食物が血液になり、細胞60億個に流れ、脳や神経や心臓をつくる。日本人は歴史的に米食主義。「適応食」が大切で、大事な所を「こめかみ」というように「米を噛むことが正しい食事」。人間は大自然の一部。腹8-7分めが良い。その生物に適応した食が自然の法則。46年玄米・黒砂糖・玄米パンの食事に改善し健康に。玄米を麹菌で発酵させ消化しやすくした。病院も大切で西洋医学は検診・治療・風邪等にも効果。国民の生活習慣が道はずれていると国の医療費もかさむ。私の26歳からの試算では医療費は1/10に。26歳で退社し食事道の推進に40年で66歳。1/10医療費へ向かって、東洋医学と西洋医学の良いところを併せて活用。ガンを東洋医学でみると原因を知り自己反省すること。「天は自ら助くるものを助く」。反省して道に戻ればよい。対応の事例。岩見沢の昭和12生の男性・肝臓がん8cm、肺とリンパ腺に移転・あと1月との宣告。玄米酵素を2袋食事と一緒に食べる。2年継続で、肝臓が普通の状態に・完治ではないかも知れないが元気に。「縁と運」だ。次に四国の70歳女性の例もご説明。青森県の木村秋則さんの「奇跡のりんご」も同じ。実のならない林檎の木の改善を、宇宙の法則・土を改善し、根本の根を改善して木がよみがえった。きっかけは土の上に落ちたドングリを拾いその実

# 10月定例会の報告（メモ）（続）

<講演>「自然治癒力と酵素」（続）

の自然の香りを味わったこと。今迄木の上の方ばかり見ていた誤りに気づき土壌菌を肥やして改善。人間も同じ。人間の根本の腸の健康維持で自然治癒力がでる。自然治癒力とは玄白等の先人の言う神の創られた素晴らしい人間の仕組み、尊厳の対象。薬・注射・手術もこれにより治る。食事が血になり肉になる。正しい食材を作ることが大切で、けや食物に薬を入れ添加物を3-4kgは良く考えるべき。薬等の点数制の改善も。日野原先生は20年間「生活習慣病」という名を主張されやっと実現。「生活習慣」が原因なのだ。緊急時は西洋医学だが、平常時は予防に力入れるべき。食は自然治癒力で、自らがやるべき。体はホメオスタシス(体の恒常性)をもつ。病気は功德で善智識だ。体がうまく働くように仕組みを教えてくれるのが病気。その関係は「免疫・ホルモン・自律神経」の三角関係で考えると判りやすい。交感神経は興奮モードでアドレナリンがでて緊張し命を護る。副交感神経はリラックスで体を癒す。この三つ連携が体の健康を護る。私は、眠る・食事を道に沿って・適度の運動・毎日朝日を見て1.5万歩の散歩を大切にしている。養生七不可も参考に。もう一つの例。15箇月前に講演を聴いた40代男性。各種の薬を飲んでいて、寝つきが悪い・疲れる・整体にいつも通う・15分座っておれない・ドクターから運動ストップの人。聴くと復元力がない。玄米酵素を食べて、いつも30回嚙飲むことにした。体重78kg。小魚と豆も。3月で手紙がきた。1月で皮膚が改善し、運動でもふらつかない。床屋でも白髪に艶が出てきたといわれた。自然に元気になった。大便も変化し軟便も改善。整骨院ではネジレが治ったと言われ、74kgに。代謝酵素が良いのかGDPやGOTも良くなる。その後の手紙で、深く眠れる、視力も0.3と0.6が1.0さらに1.2に改善。根を治したリンゴと同じ。1年で体重70kgさらに64kg。長時間の運動もできる。プロセスや経験は大切だ。食の道「食育」の言葉は明治の石塚左玄先生が元祖。知育徳育体育に優先と。食事を改善し自然治癒力がでて生活習慣病が改善し医療費は大幅低減。10月19日飛行機で読んだサンケイ新聞は正しい食の道で人生変わるとの記事が。陸軍は脚気の死者が多かった。ビタミンB1の不足。海軍は麦飯で良かった。食事道は歯に従い食す。奥歯の多くは臼歯で米を嚙む・前歯は先が尖がり野菜海草山菜・糸切り歯は繊維を切る。腸も穀物菜食用に長い。米国は30年前マクガバン委員会の提言に始まり92年農商務省は「食事指針ピラミッド」発表。一番多くは穀物を、次いで野菜果物。減らすべきは牛乳と乳製品・肉・ハム等の動物性蛋白、最も減らすべきは砂糖と油類とした。豊かさの象徴の欧米食が生活習慣病の原因と自覚し、見直された食は日本の伝統食そのもの。ガン死亡率は下がり、心筋梗塞死者は30年で1/3も減った。日本も明治大正生まれの人は壮年期に粗食だったのに元気だ。日本人の伝統食の道に還るべきだ。伝統の玄米を食す「適応食」。米は胚芽まで全て丸ごと食べる「一物全体食」。粕ではだめ。大根も根も葉も全て食べる。自分の地域の土地の旬のものを食す「身土不二」。自然治癒力を日本のため高めるべき。体験と研究に基づく力強い講義に拍手喝采が続きました。会場の質問「若者の肉食は。炊いたり焼いたり炒めたりは酵素が減るのでは。発見はインスピレーションが必要だが世界的偉人の食事は。玄米食で歯が擦り切れないか」には「健康は自助努力・健康管理は自ら。東西医療の組合せと予防医学が大切・玄米酵素の補食も。レオナルドダビッチはベジタリアン。咀嚼は長期的には骨の強化・顎も発達・食べ物で酵素を取ると玄米の消化が良くなる・玄米菜食で酵素の補食も効果」とのご回答。PHPほんとうの時代2010-10号「食事道が日本を元気にする!」の岩崎先生の論文の配布もありました。



# タウリン

## こんな生活習慣病予防策も

栄養ドリンクのCMなどでよく聞くタウリンについて調べてみました。タウリンとは硫黄を含んだアミノ酸の一種（分子式： $C_2H_7NO_3S$ ）ですが、生体内で大変重要な働きをしているようです。まだ、十分研究が進んでいるとは言えない状況で、健康食品業界の大げさな宣伝には気をつけなければいけません。はっきりしていることは、生活習慣病とは密接な関係があることで、不足しないよう工夫することも生活習慣病予防策の一つとして頭に入れておきましょう。



さて、タウリンとは前述の通り、アミノ酸の一種で、筋肉を中心に、心臓、秘蔵、網膜など身体の多くの場所に存在しています。タウリンのもっとも大きな作用は、

- 1) 胆汁酸と結合することによって脂肪を乳化し、消化・吸収を助ける
- 2) 胆汁酸はコレステロールから作られるのでコレステロールの消費を促進する

という基本的な働きで、結果として、

- 1) 脳卒中の予防
- 2) 交感神経抑制により、高血圧の予防・改善
- 3) インスリン分泌の促進、糖尿病の予防・改善
- 4) 肝臓の解毒作用の強化、肝脂肪の予防
- 5) 筋肉の収縮力を強める作用により、むくみや動悸、息切れ症状の改善、等々、

生活習慣病の予防・改善にはいいことづくめ、大きな役割を果たすと言えます。

さて、タウリンは体内でも合成されますが、必要量をすべて満たすのは難しいという見方が多く、外部から食事を通して吸収される必要があるということでしょう。外部から摂取する必要量は諸説あるようですが、700~800mg というのが多いようです。一般的な食事では100mg~300mg程度のタウリンが摂取できるので、意識してプラス400~500mg 取ればいいでしょう。そこでタウリン含有量の多い食品はと見ると、圧倒的に牡蠣やサザエなどの貝類、たこ、いかが多いようです。また、ぶりやかつおの血合いの部分にはタウリンがたくさん含まれているようです。これから涼しくなると牡蠣がおいしい季節になりますが、大きめのものなら1個20gあり、タウリン200mg程度となり、1日3個も食べれば十分です。

可食部 100g 当たり 1000mg 前後のタウリン含有食品



# 患者の力

## グリベックに見る2つの例

前号でオーファンドラッグの一つとして取り上げたグリベックにちなんだ「患者の力」を示す二つの話をしてみたい。グリベックとは、慢性の骨髄性白血病、いわば血液のがんの薬であり、絶望的な状況にあった同病の患者の未来を一気に明るくした不可欠の薬であり、また、がん細胞のみに打撃を与え、副作用の少ない分子標的薬としても知られる。しかしながら、病を根治するわけではなく、服用をやめると症状が進むので飲み続ける必要があり、しかも大変高価な薬であることで、患者の負担が大きな問題となっている薬である。このグリベックという薬に関して、「患者は強い」ということを表すいくつかのストーリーがあり、世の患者を勇気づける側面がある。その中で、二つの外国の話をしよう。

まず、1985年にアメリカのワシントン州タコマの腸外科の医師であったゴードイ・クラットさんが始めた RFL(Relay for Life=命を繋ぐリレー)というイベントのお話。このイベントは今や全米5000ヶ所、世界20カ国以上が参加する大きな運動となっている。RFLは、がん患者やその家族とか支援する仲間が集い、競技場のトラックを24時間歩いて周回し、がんからの生還者をお祝いしたり、がんと闘う患者を励ましたり、社会にがんの治療の研究のための寄付を呼び掛けるというものである。今や毎年400億円もの寄付が集まるほどの運動に成長しているとのこと。この薬の開発企業であるノバルティスファーマのグリベックの開発にこの寄付金のいくらかが使われたということである。具体的な金額は明らかでないが、患者数が少なくビジネス的に疑問のあった薬の開発の力となったことは間違いないようだ。日本にも RFL のイベントは各地で行われているが、2006年から2009年まで開催地も1か所、2ヶ所、7ヶ所、14ヶ所と増えつつあり、寄付金の額は、その4年間で、累計2600万円余とのこと。まだ大きくはないが、「お上」に頼らず自分で切り開く姿勢は見習いたい。



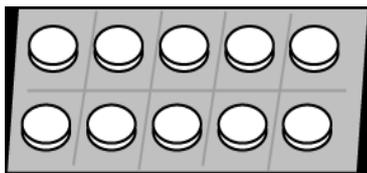
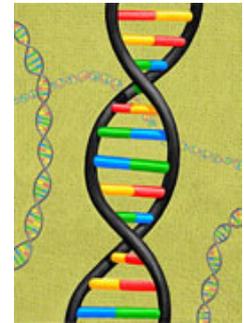
次に韓国の患者のパワーの例を見てみる。韓国でも、同病の患者がすでにアメリカで素晴らしい臨床成績を上げていることに着目、韓国でも一刻も早く認可、保険適用を訴えた。その方法も半端ではない。保険適用と薬価値下げ、個人負担軽減を達成するため、国家人権委員会のデモをかけ、建物を占拠したり、ノバルティス社へもデモ、建物占拠という実力行使に出て、警察の強制排除を食らうなどの事態に至った。しかしながらその作戦が奏功し、結果として、保険適用とか値下げが実現したというものである。このような重病の弱者もいざとなれば、また、団結すれば大きな力を発揮する例としては大きい。

ちなみに日本でもこのような例を意識して、また、患者支援団体の要求もあり、民主党のマニフェストにもあったように、高額療養費制度を見直し、この白血病のように長期継続治療を必要とする医療費の自己負担軽減を検討しているはずである。当会のような市民団体も、不運だけで命を落とす人が一人でも少なくなるよう応援したいものである。

# ファーマコゲノミクス (PGX)

## ワルファリンに見る薬剤と遺伝子の関係

病気の罹患率と遺伝子の関係については何度か触れてきたが、薬剤の有効性・副作用と遺伝子との関係について見てみよう。要は、特定の薬剤が人によって大変有効であったり、無効であったり、時には人によって重篤な副作用があることが分かっている。したがって、その薬剤を投与する場合には、非常に少量から始めて様子を見ながら徐々に量を増やす措置を取るのが一般的である。しかしながら、そんな時間的余裕がない緊急を要する場合もあれば、薬剤の効果が表れるのに何カ月もかかるような場合もある。この問題を解決するには、人の体質を遺伝子レベルまで分析して、特定の薬剤に対する感受性を検査し、初めからその薬剤の有効性、副作用の有無、適性用量を予測しようというのがファーマコゲノミクス (Pharmaco - Genomics=PGX、薬理ゲノム学) である。まさに、個々人に最適な医療を施そうと言うオーダーメイド医療の中心的存在であり、未来はこのような方向に進むことは間違いないであろう。



すでにわかっていることもいろいろあるが、例として、血栓を防ぐ経口薬として世界的に使われているワルファリンの例を見てみよう。ワルファリンはビタミンKに拮抗し、血栓による梗塞を防ぐために脳梗塞になりそうな人には一刻も早く飲ませたい抗血液凝固薬である。ところが、一方、一旦血管が切れて出血した場合には、ワルファリンの抗凝固効果により、出血が止まらず、非常に危険な薬となる。実際、ワルファリン投与による出血事故も多く、アメリカではこの救急搬送が年数万人という報告もある。

さて、ワルファリンの用量の許容範囲は人によってかなり異なることが分かっている。つまり、ワルファリン感受性の弱い人に少量では効果がないし、感受性の強い人が多量を服用するといざという時に大変なことになる。日本人は平均的にワルファリン感受性が強く、白人に比べ、少量で効果があるということである。また、同じ日本人でも人によってワルファリン感受性が随分違うということである。この人種による感受性の差異とか個人による感受性の差異、というのは結局遺伝的なものに他ならない。遺伝子型がワルファリンの効果左右しているのである。やや難しくなるが、個人の特徴を形作る遺伝的要素を遺伝子多型 (SNP) と呼んでおり、ワルファリンに対する感受性には、VKORC1 とか CYP2C9 という遺伝子多型が関与しているということである。アメリカにはすでにこれらの遺伝子多型の存在を調べるサービスがあると聞いている。ワルファリンの適正用量と遺伝子多型の相関については、世界的に、共同で研究するプロジェクトも動いている。もちろん、ワルファリンの用量を決める要素は、遺伝子検査だけではなく、通常用量を決める際にも大きな要素である身長・体重など体格面もあるが、実際の臨床上でも、初期用量の決定的な要素として取り上げられる日も遠くはなさそうだ。

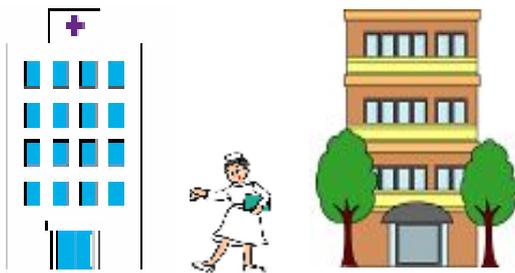
今回はワルファリンの例を取り上げたが、一般論としても、薬の効き目、副作用は人によって、違うこと、「自分に効いたからあなたにも」は危険であると認識しよう。

## 医療は公共財かビジネスか

### ⑰病院隣接地の患者用賃貸アパート

病気の状態は、発症後の時間経過により、急性期、亜急性期、回復期、慢性期などと分けられている。病院には、「病院は治療をする所であり、養老院ではない」という御旗があり、慢性期に入った患者に対してクールになり、患者を病院から追い出したくなる、あるいは追い出すのが通例である。病院として治療と言う価値を付加し難くなるわけである意味当然であろう。一方、慢性期の患者の側としても、治療の時間は殆どないのに、いざという時だけ直ぐに医師や看護師のケアを受けたいという理由で、やむなく高額な入院費を負担して病院で長期に“暮らして”いるわけで、家族としても、経済的に余裕がなければ、出来れば退院させたい気持ちも十分ある。実際、脳血管障害のように重い病気を背負った患者の不健康寿命を象徴する状態であると言えよう。

そんな状況の解決策の一つとして、病院隣接のシニア用アパートがあちこち出来ている。病院のように治療の設備は整っていないが、身体不自由なあるいは慢性的な病気をもつ高齢者に配慮した賃貸アパートで、もちろん病院に入院するよりずっと安く、何よりも病院の隣に必要な時に連携し



たサービスを受けられ、患者、家族にとって心強いし、家族が介護をするのも気楽だという概念である。病院にとっては、より大きな付加価値をもたらす急性期や亜急性期の患者に病床を割り当てることが出来る。また、本質論ではないが、医師は通常出かけて行って治療をする場合には往診料とか往診に伴う種々の加算を享受することが出来る。場合によっては病院の他の棟より近いかも知れないすぐ隣

の棟のアパートに行くだけで往診料を取ることが出来る。もちろん、異変があった時に救急車も要らないというのもメリットと言えよう。このような高齢者専用アパートが増えている背景として、もう一つ、一般的には、普通のアパートが要介護の患者が入居するのを嫌がるというのもあるようだ。国土交通省もその点を重視し、高齢者専用アパートの普及を進めているということである。

病院隣接の高齢者専用アパートの例として JR 札幌病院のシニア対応マンションがある。JR 北海道とミサワホームの共同事業で、高齢者専用賃貸住宅として、国土交通省のモデル事業となっている。JR 札幌駅徒歩 7 分の便利なところで、今年の秋着工、来年（平成 22 年）秋入居開始予定。バリアフリー完備で、間取りは 1K、1LDK、2LDK など計 114 戸。家賃は 17、8 万円が中心とのこと。純粋のアパートに比べれば若干高いが、病院の個室と比べて半額程度で済む。レストランや食事・訪問介護サービスの事業所もあり、付加価値十分のアパートである。

JR 札幌病院のマンションの場合は高級に属するが、病院隣接とか近所の高齢者専用住宅は家賃 10 万円前後でもたくさん出来ている。このような高齢者専用アパート経営は不動産業界と医療界のニッチェビジネスと言えるわけで、医療法人が直接アパート経営可能かどうかは難しいが、土地があるのであれば、患者側、医療側双方にとってプラスになること、ぜひどんどん建って欲しいが・・・。

## 友好団体のイベント紹介

### ふるさとテレビ月例開発セミナー

日時：11月19日（金）

17：00～受付開始

17：45～講演 樋口武男先生 大和ハウス工業代表取締役会長兼 CEO

19：10～懇親会 著名人によるショートスピーチ会

会場：日本教育会館

千代田区神田一ツ橋 地下鉄/新宿線・半蔵門線「神保町」(A1 出口 3 分)

地下鉄/三田線「神保町」(A8 出口 5 分)

地下鉄/東西線「竹橋」(北の丸公園出口 5 分)

会費：¥5,000（講演・懇親会ともご参加頂けます）

ご希望の方は、ふるさとテレビ事務局へ

TEL:03-5805-2555 FAX:03-5803-9883 E-Mail:furusatotv@furusatotv.jp

URL:<http://www.furusatotv.jp>

### 日本総合医学会 第65回 東京大講演会

日時：11月3日（水・祝）

9:00～開場

10:30～開会

講演「奇跡のリンゴがおしえてくれたこと」木村秋則先生

「教育が拓く未来」櫻井よしこ先生

「小児科医 癌を語る」真弓定夫先生

パネル討論会

大塚貢先生、島田修先生、木村秋則先生、真弓定夫先生、岩崎輝明先生

会場：九段会館

地下鉄・半蔵門線、東西線、都営新宿線、「九段下」1分

会費：指定席¥5,000 自由席¥4,000

ご希望の方は、NPO法人日本総合医学会事務局へ

TEL:03-6902-0678 FAX:03-6902-0677 E-Mail:info@npo-nsi.com

FAX : 03 - 5403 - 7724 健康医療市民会議宛て

## 定例会参加申込書

送信日 月 日

ご氏名 :

第32回(11月)定例会<11月16日(火)国際医療福祉大学>に

A. 参加します      B. 参加しません

同伴者、住所変更など、ご連絡事項がありましたらお知らせください。

定例会後の「先生を囲む会」<銀座ライオン青山1丁目店>に、

A. 参加します      B. 参加しません

同伴者がありましたらお知らせください。

健康医療市民会議(KISK) 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: [http:// www.kisk.jp](http://www.kisk.jp)